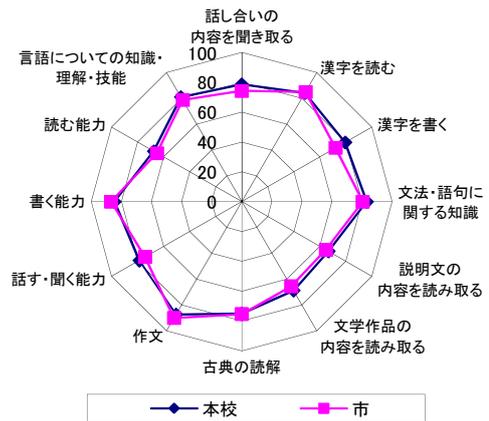


宇都宮市立旭中学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	78.7	74.3
	漢字を読む	84.0	84.9
	漢字を書く	79.4	72.1
	文法・語句に関する知識	83.2	80.5
	説明文の内容を読み取る	66.6	64.6
	文学作品の内容を読み取る	68.9	65.6
	古典の読解	75.1	75.3
	作文	87.4	90.0
観点別	話す・聞く能力	78.7	74.3
	書く能力	84.7	86.8
	読む能力	67.6	65.1
	言語についての知識・理解・技能	80.9	78.6



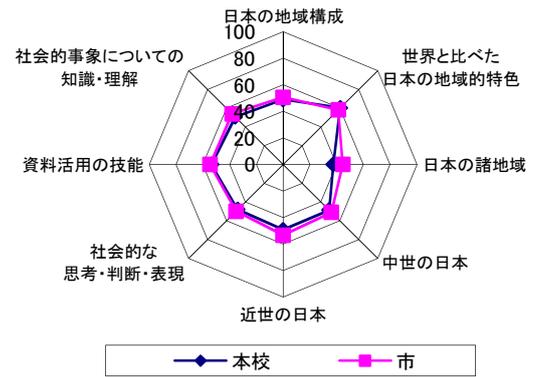
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	全体としては78.7%の正答率で、市の平均より4.4ポイント上回っている。特に、「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる」は、市の平均より大きく上回った。	授業の中でも、定期的に関き取りテストを行い、話の要点をつかむ練習などを行い、内容を聞き取るポイントを理解させるようにする。
漢字	漢字の読みの正答率は、84.0%で市平均より0.9ポイント下回っている。特に、「誓う」「囃る」の読みは、市の平均より下回った。 漢字の書きの正答率は、79.4%で、市平均より7.3ポイント上回っている。	漢字テストなどを繰り返し実施し、漢字に対する生徒の関心を高めるとともに、授業の中で、間違えやすい漢字などについては取り上げて練習し、特に訓読みの漢字の読み方など、ルビに頼ることなく、漢字を覚えられるように工夫する。
文法・語句に関する知識	正答率は83.2%で、市平均より2.7ポイント上回っている。四字熟語「以心伝心」は99%をこえる正答率であったが、助動詞「そうだ」についての理解が市の平均を下回った。	文法については定期的に復習の時間を設けているので、今後も継続する。また、付属語の理解や用言などは繰り返し練習することで定着させていく。
説明文の内容を読み取る	正答率は66.6%と、市平均より2.0ポイント上回っている。文章の展開に即して内容をとらえることはできるが、文章の構成や展開をとらえることはあまり得意ではない。	文章の内容をとらえるだけでなく、文章全体の流れをつかみ、文章の構成や展開を考えながら読む練習をさせたい。また、筆者の主張の部分と、事実と意見の違いに注意しながら読む能力を高めていきたい。
文学作品の内容を読み取る	正答率は68.9%と、市平均より3.3ポイント上回っている。特に「登場人物の心情をとらえることができる」の問題について93%をこえる正答率であった。	登場人物の心情の読み取りや、場面の展開に即して読むことなどはできているので、文章中の語句の意味の確認や、表現技法についての知識を広げる工夫をしていく。
古典の読解	正答率は75.1%で、市平均より0.2ポイント下回っている。主語をとらえること、文章の内容を的確にとらえることはできているが、歴史的かなづかいを現代かなづかいに直すことは、市平均より2.9ポイント下回っている。	文章の内容をとらえたり、主語をとらえることはできているので、歴史的かなづかいの読み方の基本的なことを学習するとともに、授業の中でこまめに読み方の確認をしていく。
作文	正答率は87.4%で、市平均より2.6ポイント下回っている。すべての項目について市の平均を下回っており、特に、3段落構成で文章を書くことができるでは、市平均に比べて4.6ポイント下回っている。	授業の中で、自分の意見をまとめて発表する機会を増やしていきたい。また、作文を書く際、何段落で書く等の条件を付けた作文を書く機会を増やしたり、よい作文の例やよくない例などを示して書く経験を増やしていくようにする。

宇都宮市立旭中学校 第2学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	日本の地域構成	48.9	50.7
	世界と比べた日本の地域的特色	60.3	58.2
	日本の諸地域	37.5	44.6
	中世の日本	48.6	51.0
	近世の日本	49.1	53.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	48.0	49.8
	資料活用の技能	53.5	54.7
	社会的事象についての知識・理解	50.7	53.9



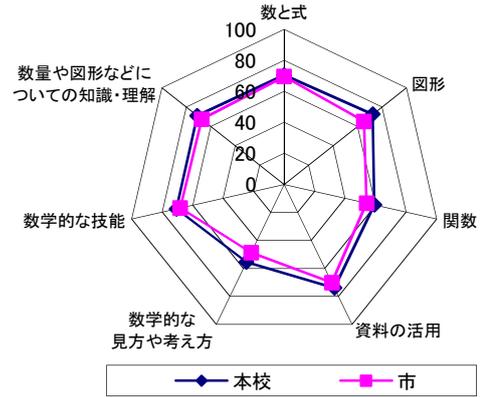
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点	
地理	日本の地域構成	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を1.8ポイント下回った。 ・特にキャンペラを中心とした正距方位図法の地図上で、日本のおおよその国土の位置を読み取る問題で正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球儀と平面地図を見比べたり、様々な資料を用いて学習課題を解決させたりして、地球の姿を様々な角度から見させる演習を増やしていきたい。
	世界と比べた日本の地域的特色	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を2.1ポイント上回った。 ・8問中6問は市の平均を上回った。日本の過疎地域の理解と、日本国内の時間距離の変化についての資料の読み取りで正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過疎地域が生じる背景や、国内の交通網の発達についてフォローアップ問題を活用して再確認させたい。
	日本の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を7.1ポイント下回った。 ・特に日本の各地域の家の工夫について考えさせる問題で正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教材を活用し、視覚的に自然環境と暮らしの関わりをとらえる学習を取り入れたい。
歴史	中世の日本	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を2.4ポイント下回った。 ・東山文化や永仁の徳政令の出された背景については市の平均を上回った。日明貿易や中世の出来事の大まかな流れをとらえる問題で正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで以上に単元のはじめと終わりに時代を大きな流れでとらえていく学習で学習形態を工夫しながら行いたい。
	近世の日本	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を4.2ポイント下回った。 ・鉄砲伝来や織田信長の宗教政策、武家諸法度、大阪の繁栄の理由などは市の平均を上回った。豊臣秀吉の太閤検地や江戸時代の農村の貨幣経済の発達に関する問題で正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代の経済活動についてまとめさせる中で、多面的・多角的に検討させる学習を取り入れたい。

宇都宮市立旭中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	70.4	69.6
	図形	72.5	65.2
	関数	59.2	54.1
	資料の活用	74.0	70.3
観点別	数学的な見方や考え方	55.5	48.7
	数学的な技能	70.6	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	71.0	67.5



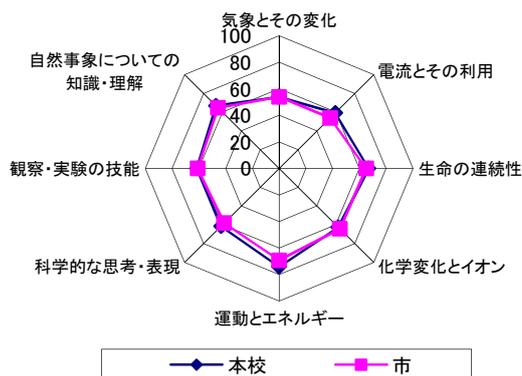
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市と本校を比較した場合、0.8ポイント上回っている。 ・多項式の展開の正答率が高い。しかし、平方根や2次方程式についての正答率がやや低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平方根そのものの問題だけでなく、解の公式においても、平方根の計算によるつまずきが考えられるので、さらに理解が深まるように、2乗の考え方などをしっかり復習したうえで計算の仕方を定着させていきたい。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市と本校を比較した場合、7.3ポイント上回っている。 ・すべての項目において、市を上回っている。記述の証明問題においても、正答率は市を14.2ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・証明問題において、証明の根拠となる事柄を選ぶことはできても記述になると正答率の落ち込みが見られたので、証明の書き方について理解を深め、パターン化できるように支援していきたい。 ・記述の証明問題に無回答の生徒が1割程度見られたので、多くの問題に触れさせ、積極的に問題に取り組むよう指導していきたい。
関数	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市と本校を比較した場合、5.1ポイント上回っている。 ・xの2乗に比例する関数については、グラフを読みとったり、式を求めたりする問題の正答率は市を上回っているが、変域の問題の正答率は市を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・xの2乗に比例する関数において、変域やグラフを利用する問題の正答率が低かったため、関数の問題に取り組むうえでは、表・式・グラフのつながりを意識させ、問題によって活用するものを正しく選択できるように指導していきたい。
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市と本校を比較した場合、3.7ポイント上回っている。 ・正答率は高めであるが、確率で、カードをひく問題の正答率はやや低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確率においては、数と式の内容もあわせて復習しながら定着させたい。樹形図のかき方をおさえ、さらにその良さについて細かく確認しながら指導し、理解できるように支援していきたい。

宇都宮市立旭中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	気象とその変化	53.9	54.0
	電流とその利用	59.2	53.8
	生命の連続性	66.8	65.0
	化学変化とイオン	62.6	64.2
	運動とエネルギー	74.1	69.2
観点別	科学的な思考・表現	61.5	58.2
	観察・実験の技能	61.4	61.1
	自然事象についての知識・理解	66.8	64.6



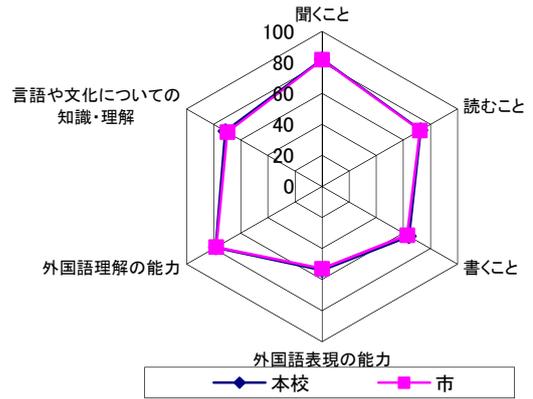
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
気象とその変化	露点は何であるか、湿度は何であるかは理解しているが、露点と湿度が温度によって変化することなど、応用の部分が理解できていない。一方で、前線の通過と天気の変化については基本的な内容を理解していることがわかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や問題演習を丁寧に行い、活用する力をつけていく必要がある。 ・身近な自然現象に興味関心を抱かせ、その自然現象がなぜ起こるのかをその都度考えさせるよう指導する。
電流とその利用	国、市と比較すると正答率が高いが、静電気の性質で電流、電圧よりも理解がされていないことがわかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・静電気の性質を確かめる実験は行っているが、教科書の内容以外にいろいろなもので実験を行い、さらに理解が深まるように授業を工夫する必要がある。 ・LED等の新技術についても適宜指導する。
生命の連続性	細胞分裂の過程についてはよく理解しているが、細胞の観察実験の技術や生物の体の成長と細胞分裂後の細胞の成長などは知識は不足していたことがわかる。メンデルの実験で、子の代の形質、遺伝子については理解しているが、孫の代でどうなるか理解していない。	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞の観察では染色のしかたに注目させたり、いろいろな細胞を染色して観察することで技能を身に着けさせるようにしたい。 ・メンデルの実験では、子の代、孫の代を学習した後、発展としていろいろな例を問題演習で取り上げるなど、関心を高められるようにする工夫が必要である。
化学変化とイオン	イオン式や数値が問題の中に出てくると敬遠する生徒がいる。電池や中和などの化学反応をあいまいに理解しているのが細かいところがよくわからない。	<ul style="list-style-type: none"> ・イオン式では1価、2価、+と-をあいまいに覚え、規則性を理解できない生徒も多いので、板書や問題演習に工夫して繰り返し書いて覚えられるようにする必要がある。 ・電池は実験を行ったあと、しくみをよく説明するなど授業に工夫が必要である。
運動とエネルギー	仕事の量を求めることはできるが、道具を使った仕事は、道具を使うことで仕事の量が小さくなるような思い込みを改善できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・道具を使った仕事は実験を多く行うことで理解を深め、既存の概念を払しょくできるように授業の改善が必要である。 ・等速直線運動では、グラフは把握していてもそれがどうしてそのようになるのかは理解されていないので、実験後のまとめの授業でわかりやすい伝え方を工夫する必要がある。 ・授業においても身近な弓道を利用して力の合成をわかりやすく解説するなど工夫することによって、理解度を向上させるような指導が必要である。

宇都宮市立旭中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	聞くこと	82.0	81.7
	読むこと	72.7	72.2
	書くこと	64.1	62.8
観点別	外国語表現の能力	53.9	53.0
	外国語理解の能力	78.6	78.1
	言語や文化についての知識・理解	71.4	70.0



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	・宇都宮市と本校を比較した場合、市の平均を0.3ポイントとわずかに上回っている。4問中では、絵を見て答える問題に対して、英文を聞いて設問に答えたり、対話文の応答文を選ぶ問題では正答率が低くなっているため、英文の要点を聞き取る力が弱い。	・普段の授業でもリスニングを取り入れているが、もっといろいろな英文を聞かせ、英文や対話文の内容を的確に把握し、適切な答えや応答ができるように練習を重ねていきたい。 ・ALTとの自然な会話のやりとりで会話のスピードにも慣れさせ、また、授業中の英語をさらに多用することで、リスニングの力をつけていきたい。
読むこと	・宇都宮市と本校を比較した場合、市の平均を0.5ポイントとわずかに上回った。この領域における全ての質問において、わずかに市の平均を上回っている。	・読む力をつけるために、比較的やさしい新聞記事やいろいろな長文を取り入れて練習してきたが、今後も継続して行い、さらに設問に工夫をして読解力をつけさせたい。また、Lessonごとの文法事項を入れた長文の問題を作成し、内容把握と同時にその文法を使った表現にも慣れさせたい。
書くこと	・宇都宮市と本校を比較した場合、少しではあるが市の平均を1.3ポイント上回った。場面に応じて書く英作文では、市の平均を2.5ポイント上回っている。	・書く力をつけるために、単語テストやレッスンごとの基本本文のテストを定期的に行ってきたので、今後も継続して行いたい。また、基本本文から発展して自分のことを表現する力をつけさせるために、英作文をするときには積極的に辞書を使うように指導してきた。今後もそれを継続し、さらに英作文の時間を増やして自分の立場でいろいろなことが表現できる力を身につけさせていきたい。